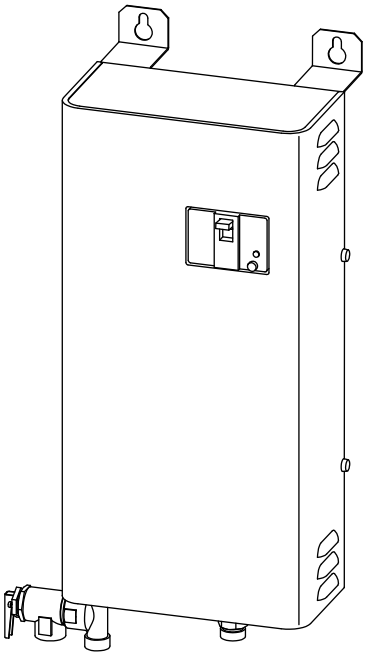
ITOMIC

工事要領、取扱説明書

製品名：　電気瞬間湯沸器

型　式：　DE-10,15N1(1)



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置、ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡しください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

※この工事要領、取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

株式会社日本イトーミック

もくじ

共通項目 ･･･2

安全上のご注意･･･3

DE-N1（1）について ･･･5
各部名称 ･･5
仕　様 ･･6

工事要領 ･･･8

施工前にご確認ください･･･9
1.部品の確認 ･･9
2.設置場所の確認 ･･･10

施工する･･11
1.設置工事 ･･･11
2.配管工事 ･･･12
3.電気工事 ･･･13
4.漏電ブレーカの動作確認 ･･･14
5.外装カバーの取り付け ･･･15
6.試運転を行う ･･･16
7.施工後の確認 ･･･17

取扱説明 ･･ 18

使用方法･･19
1.使用前の準備と確認 ･･･19
2.お湯を出す／お湯の温度を調整する ･････････････････････････････････20

お手入れの方法･･20
保守点検項目と実施の目安 ･･･20
長期間使用しないときは ･･･20
安全弁の動作確認 ･･･21
外装の清掃 ･･･22

こんなときは･･23
故障かな？と思ったら ･･･23

アフターサービス･･･25
消耗品について ･･25
補修用性能部品について ･･･25
メンテナンス契について ･･･25
修理をご依頼の際には ･･･25

共通項目

安全上のご注意

本書には、お客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方へお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、『死亡または重傷などを負う可能性が想定される』内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。

⃠の記号は、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
⃠の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。（左図の場合は『分解禁止』）

●の記号は、しなければならない行為（強制行為）を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
（左図の場合は『電源プラグをコンセントから抜くこと』という指示です。）

重要事項：必ずお守りください

⚠ 警告	
	アース（D種接地）工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
	定格電圧でお使いください。一時変動がある場合には±10%以内の環境でお使いください。 故障、火災の原因となります。
	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 万一の故障等による漏電発生時に感電、火災のおそれがあります。
	結線部は正しく、ゆるみがないように配線作業をしてください。 発火、感電の原因となります。
	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。
	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	粉じんの多い場所に設置しないでください。 火災、感電、故障の原因となります。
	設置時、リセット操作時、メンテナンス作業時以外は外装カバーを開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	水が掛かったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。 腐食や感電、故障の原因になります。
	水・油・洗剤等が掛かる位置に機器本体および電源プラグ用のコンセント（電源プラグ付機種の場合）を設けないでください。 腐食や感電、故障の原因になります。

⚠ 警告

安全弁点検時は、安全弁本体や配管に手を触れないでください。
やけどのおそれがあります。

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、水栓金具に直接触れないでください。
やけどのおそれがあります。

⚠ 注意

機器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。
落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。

機器本体に強い力や衝撃を与えないでください。
故障や漏水の原因となります。

水道水（上水）以外は使用しないでください。
井戸水などを使用すると腐食などにより漏水、故障、発火、漏電の原因となります。

本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所には設置できません。
凍結により破損、漏水の原因となります。

給湯配管は鳥居配管しないでください。
誤動作、故障の原因となります。

左右にある通気孔（ルーバー）をふさがないでください。
故障や誤動作などの機器異常の原因となります。

給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。
漏水の原因となります。

配管に使用するパッキンはノンアスベストパッキンを使用してください。
漏水の原因となります。

機器本体へ配管接続する前に配管内のゴミ（切削粉、砂、シールテープ等）を除去するため、止水栓を開きフラッシングしてください。
故障や漏水の原因となります。

火災予防条例に則した離隔距離を取って設置してください。
壁面損傷のおそれがあります。

床面に防水、排水処理を施してください。
漏水が起きた場合、大きな被害につながるおそれがあります。

規定の給水圧力（静止圧）にてご使用ください。給水圧力が0.4MPaを超える場合には減圧弁を設け、調整してください。
誤動作や故障の原因となります。

給湯配管距離は最長で6m以内としてください。（推奨2m以内）
誤動作や故障の原因となります。

満水質量に十分耐えられる強度を持った壁面に必ず垂直に設置してください。
落下・故障の原因となります。

給水温度は必ず35℃以下でご使用ください。
誤動作や故障の原因となります。

飲用する場合は、やかんなどで沸かしてからお飲みください。
健康を害する恐れがあります。

他所との同時使用により水圧変動が起こり、お湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
やけどの恐れがありますので、水圧変動を抑えた配管設備にしてください。（分岐場所を遠くにするなど）

満水にしてから通電してください。
故障の原因となります。

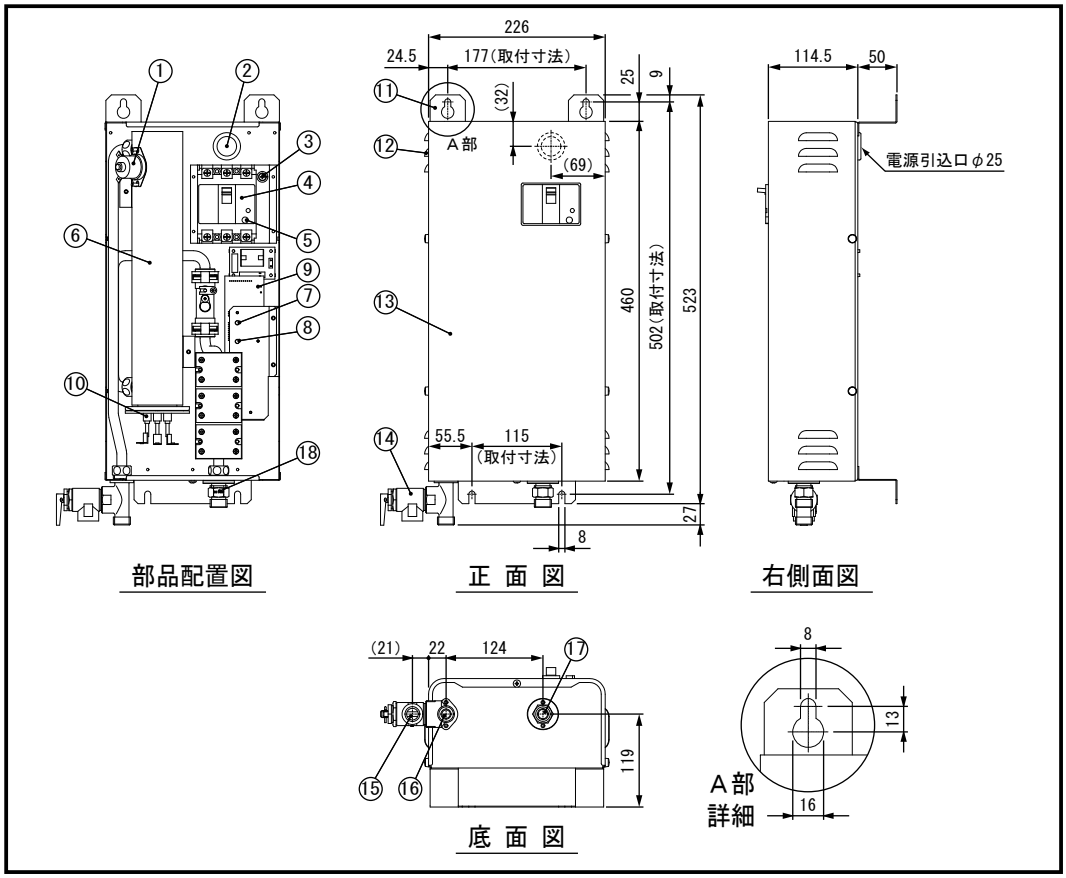
必ず本体の漏電ブレーカの動作を確認してください。
故障のまま使用すると漏電の時に感電するおそれがあります。

定期的に安全弁の動作確認を行ってください。
万一動作不良を起こした場合、配管が破損したり事故の原因となります。

DE-N1（1）について

本機は約50℃のお湯を出湯する壁掛型電気瞬間湯沸器です。
流量と水温を検知し、昇温に必要なヒーターへの電力供給を制御して約50℃を出湯するように水を加熱します。
（ただし、能力不足、電圧降下などによる電圧変動、ヒーターの発熱量の差などにより50℃が出ない場合があります）

各部名称



①過昇温防止スイッチ　②電源引込口（φ25）　③アース用ねじ（M5）　④漏電ブレーカ
⑤テストボタン　⑥加熱部（水管）　⑦運転表示灯　⑧故障表示灯
⑨コントローラ　⑩フランジヒーター　⑪取付金具　⑫通気孔（ルーバー）
⑬外装カバー　⑭安全弁　⑮吹出し口（Rc1/2）　⑯給湯管接続口（G1/2オネジ）
⑰給水管接続口（G1/2オネジ）　⑱逆止弁（内蔵）

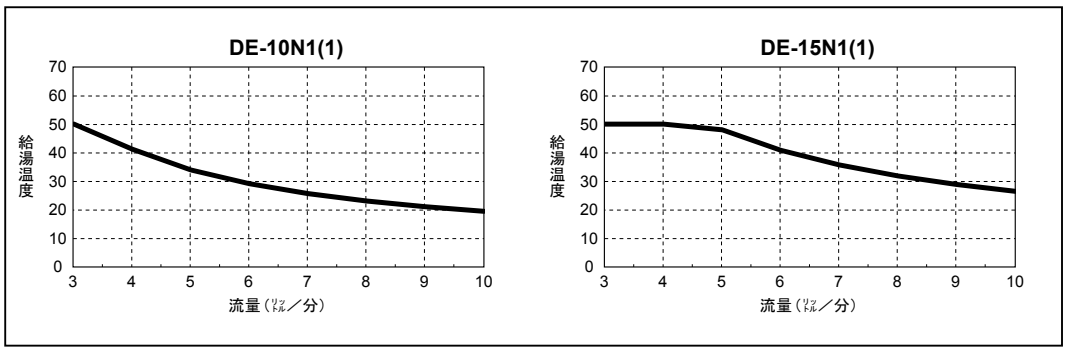
仕　様

型式		DE-10N1（1）	DE-15N1（1）
標準電圧		三相200V	
ヒーター容量		10.1kW	15kW
定格電流		29.2A	43.3A
発生熱量		36.4MJ/h	54MJ/h
号数換算（※1）		5.7	8.6
使用最低流量（※2）		3L/min以上	
最高許容流量		25L/min	
50℃ 出湯量	水温　5℃	3.2L/min	4.8L/min
	水温15℃	4.1L/min	6.1L/min
	水温25℃	5.8L/min	8.6L/min
使用水圧（静止時）		0.1～0.4MPa	
安全装置		漏電検出装置、過昇温防止装置（※3）、異常時主回路遮断装置、 温度センサー異常検出	
満水質量		約8kg	
一次側使用水温		35℃以下（※4）	
設置環境温度		0～40℃（※4）	
本体寸法		幅226×奥行114.5×高さ460mm	
設置場所		屋内	

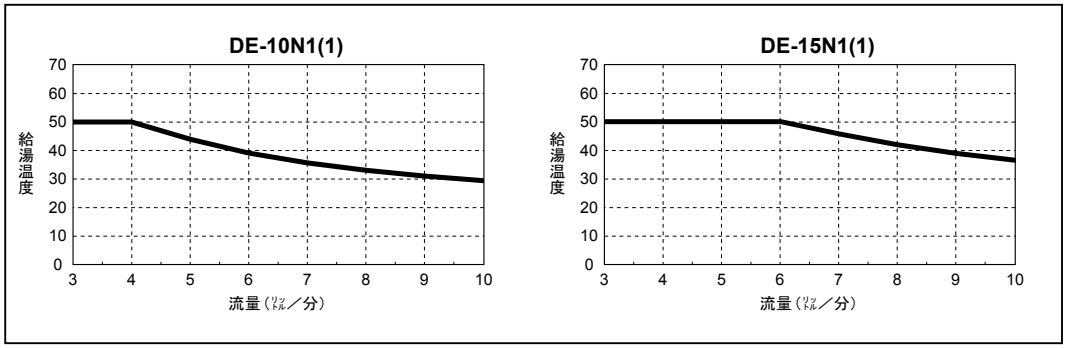
（※1）号数とは、水温から25℃上昇させた時の毎分の出湯量を表します。
（※2）使用最低流量は通電が継続する最低の流量で、それ以下の場合は動作しません。
（※3）約85℃で作動し、ヒーターへの通電をストップします。
（※4）但し、凍結のないこと。

DE-N1（1）について

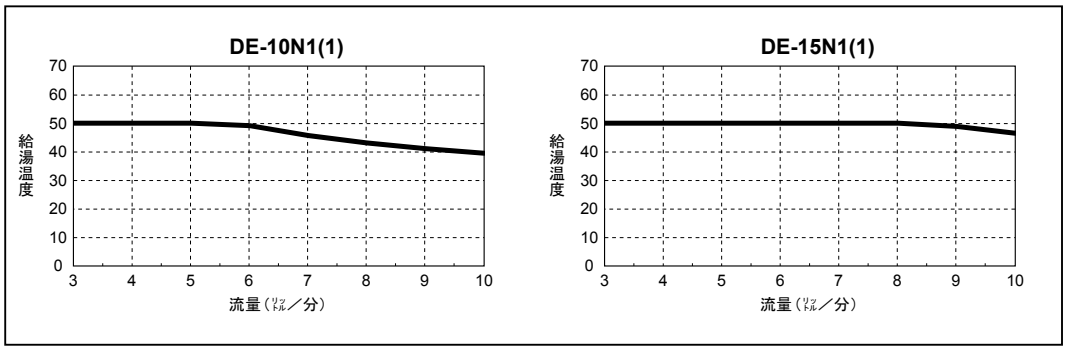
出湯能力グラフ（水温5℃）



出湯能力グラフ（水温15℃）



出湯能力グラフ（水温25℃）



工事要領

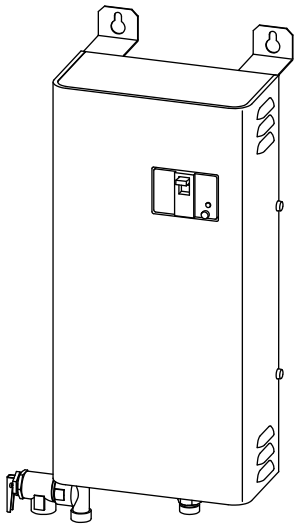
正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

施工前にご確認ください

1.部品の確認

【製品に同梱されています】

本体



付属品

工事要領、取扱説明書×1
（この冊子です。当冊子は工事終了後、
ご使用になる方へお渡しください。）

【お客様にてご手配ください】

お客様手配品（→ P.12『標準配管図』参照）

①混合水栓・・・・・・・・・・・ 湯沸器には出湯温度を調節する機能がないため必要です。
②給水、給湯配管・・・・・・・ 配管するために必要です。
③袋ナット、ユニオン ・・・・ メンテナンスの際に湯沸器、安全弁を取り外せるよう施工するために必要です。
④パッキン・シールテープ ・ 配管接続部分から漏水させないために必要です。パッキンは必ずノンアスベストパッキンをご使用ください。ゴム製のパッキンを使用すると、漏水のおそれがあります。
⑤ストレーナー ・・・・・・・ 湯沸器内へのゴミの流入を防止します。
⑥止水栓・・・・・・・・・・・ 流量の調節やメンテナンス等の際に給水を止めるため必要です。
⑦漏電ブレーカ ・・・・・・・ 万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA、0.1秒)
⑧固定用ボルト類 ・・・・・・ 現場に合った固定用のボルトやAYプラグ等をご用意ください。

上記手配品は必ずご用意ください。

⑨減圧弁・・・・・・・・・・・ 給水圧力が0.4MPaを超える場合は必ず取付けてください。

上記手配品は設置状況に応じてご用意ください。

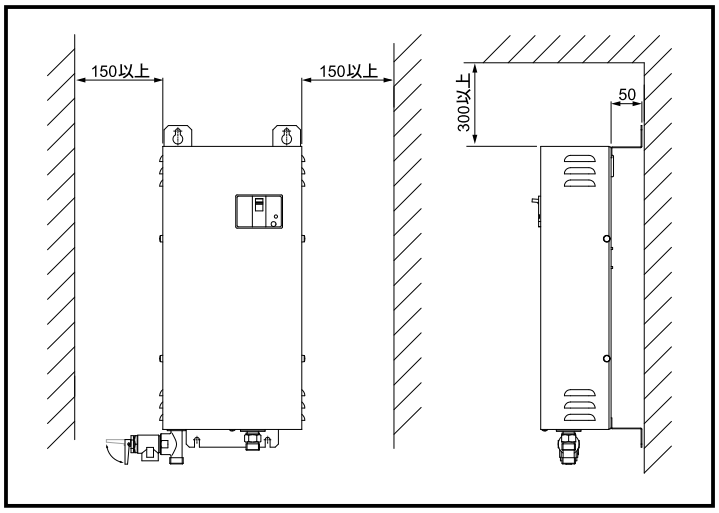
2. 設置場所の確認

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
設置環境	凍結しない場所ですか？ 凍結する場所ではご使用になれません。	□
メンテナンススペース	メンテナンスのために本体を取り外せるスペースは確保されていますか？ メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスの際に製品を取り外すことができません。（下図参照）	□
配管距離	給湯配管距離が最長6m以内で収まる場所ですか？ （推奨2m以内） 給湯場所が機器より離れすぎている場合は動作が鈍くなり、お湯の待ち時間が長くなります。また、ヒーターの余熱により安全装置が作動します。配管は必ず最長で6m迄としてください。	□
取付壁面	垂直な壁面ですか？ 垂直でない場合はお取り付けいただけません。	□
	満水質量に耐えられる壁面ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	□
電源の有無	三相200Vの電源が引き込める位置にありますか？ 無い場合は取り付けや増設が必要です。	□
電　圧	定格電圧（三相200V）の±10%以内ですか？ 電圧が範囲内に収まっていないと、性能を十分に発揮できない場合や、故障・火災の原因にもなりますので、一時変動がある場合にも定格電圧の±10%以内の電圧であることを確認してください。	□
給水圧力	給水圧力は0.1MPa ～0.4MPaの間になっていますか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。給水圧力が0.4MPaを越える場合は、弊社関連商品の一軸型減圧弁 いちじく（iJG-K）を必ず取り付けてください。	□

メンテナンススペース

以下のメンテナンススペースを必ずお取りください。



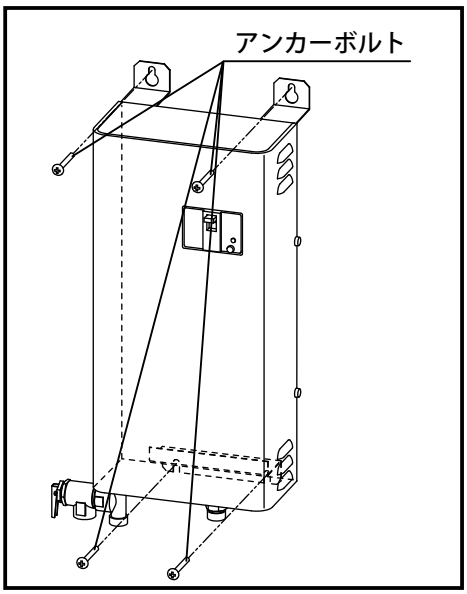
施工する

1. 設置工事

①各市町村の火災予防条例に則した距離をとって、十分な強度を持つ壁へアンカーボルト等で垂直に固定してください。

●推奨アンカーボルト

アンカーボルト種類	カールボルトプラグ
アンカーボルト径	M5
アンカーボルト長さ	32mm



ワンポイント P

- 湯切れや偏流を避けるため、給湯口数（給湯栓数）は湯沸器の給湯能力に見合った個数にしてください。
- 給湯配管距離は最長で6m以内としてください。（推奨2m以内）
- 本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所には設置できません。

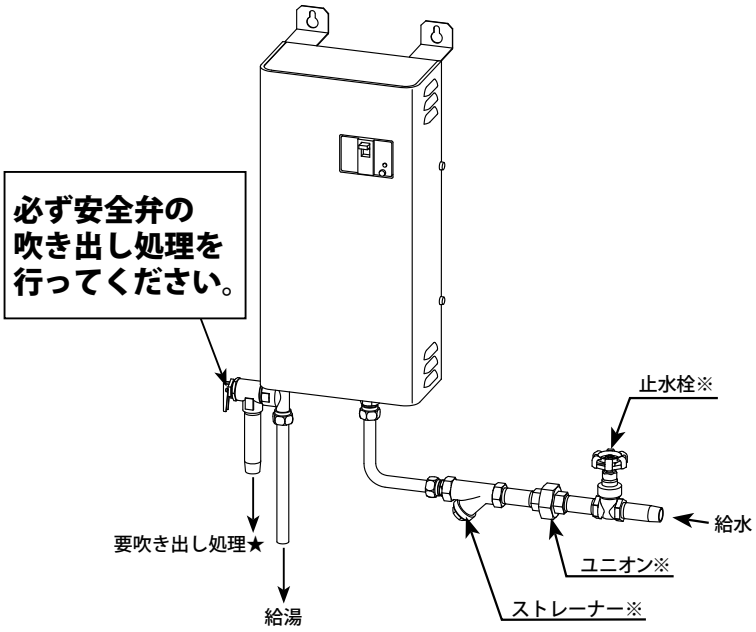
2. 配管工事

①給水一次側にお客様手配品のストレーナー、止水栓を必ず取り付けて配管してください。

②給湯側に取り付けられている安全弁（0.5MPa）の吹出し処理を行ってください。

DE-N1標準配管図

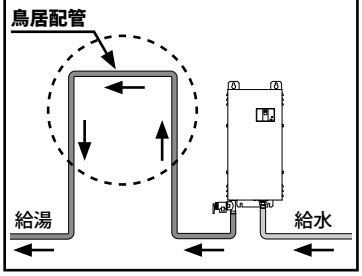
※お客様手配品 ★逃し配管の先端は必ず大気へ開放し、間接排水としてください。



ワンポイント P
実際の利用に当たっては配管および混合水栓などの圧力損失を計算し、給湯出口で3L/min以上の流量を得られるようにしてください。（※最高許容流量は25L/minです。）

給湯配管は鳥居配管しないでください。
破損、故障の原因となります。

鳥居配管のイメージ



※給水圧力が0.4MPaを超える場合は、関連商品の一軸型減圧弁（iJG-K）を必ず取り付けてください。

3. 電気工事

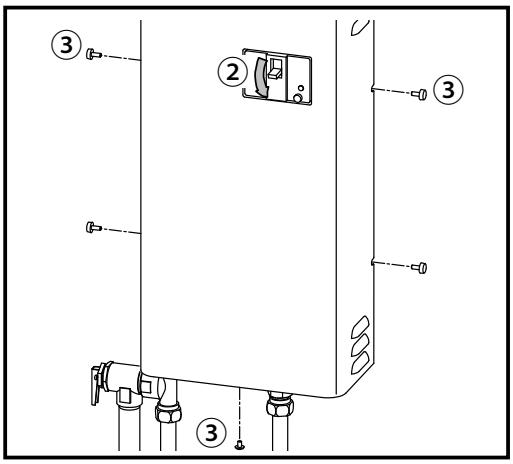
①電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D種設置工事を行ってください。

配線する

①一次側の電源がOFFになっている事を確認してください。

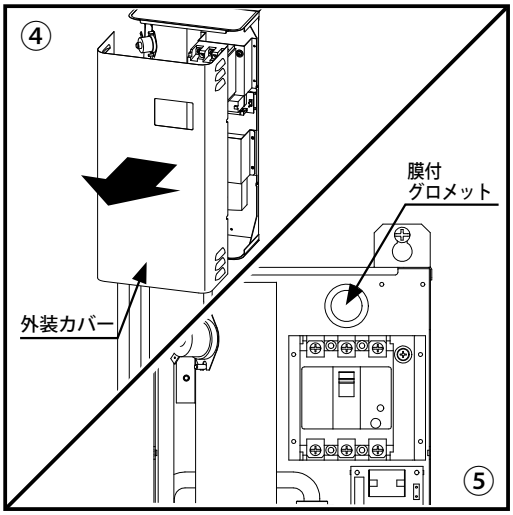
②本体の漏電ブレーカがOFFになっている事を確認してください。

③左右4ヶ所と底部1ヶ所のネジを外します。



④外装カバーを手前に引いて取り外します。

⑤膜付グロメットの膜に切り込みを入れます。膜付グロメットの径はφ25mmです。(グロメットを外すとφ30mmになります。)

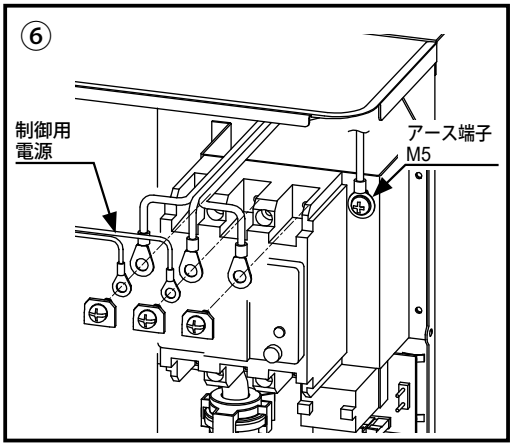


⑥下表を参考にして電源ケーブルを通してください。(内線規程1340-2表による)

◆引込電線表(参考)

機　　種	引込電線断面積
DE-10N1(1)	5.5mm²
DE-15N1(1)	14mm²

⑦右図のように配線してください。



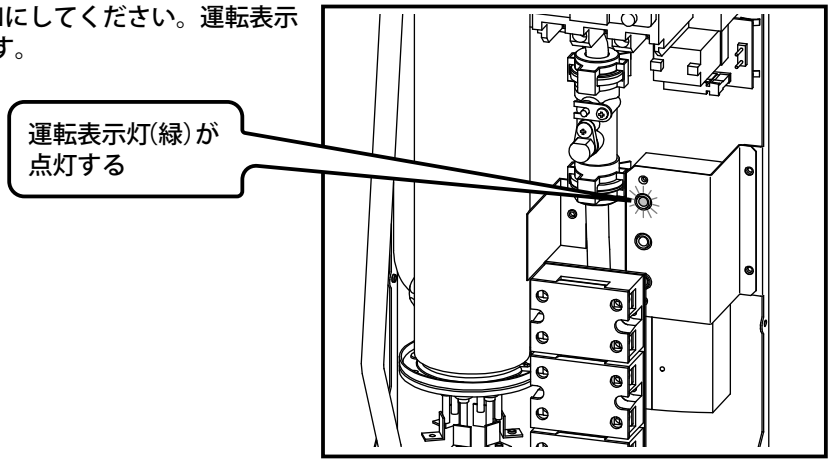
制御用電源の端子が右図のように電源端子の上になるように配線してください。
図と違う配線を行なった場合、発火、感電の原因となります。

ワンポイント P

本器はヒーター通電時に大電流が流れるため、電源線に微振動が発生します。配線を壁に固定すると、まれに壁面と共振し振動音が発生する場合がありますが、製品の異常ではありません。

4. 漏電ブレーカの動作確認

①一次側の電源をONにしてください。運転表示灯(緑)が点灯します。



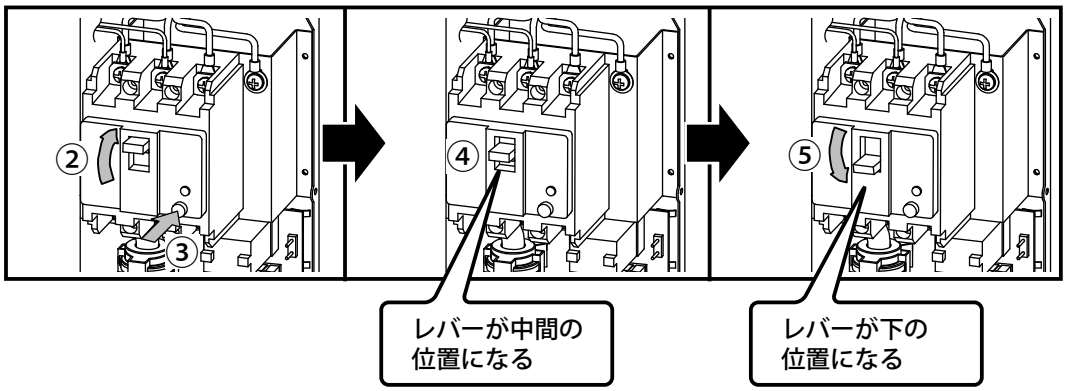
②本体の漏電ブレーカをONにしてください。

③テストボタン(灰色)を押してください。

④漏電ブレーカがトリップ状態(レバーが中間の位置)になることを確認してください。
下図のとおり動作すれば漏電ブレーカは正常です。

⑤漏電ブレーカのレバーを完全に下げOFFにしてください。

※レバーを完全に下げないと、再びONにすることが出来ません。



本体の漏電ブレーカの定格

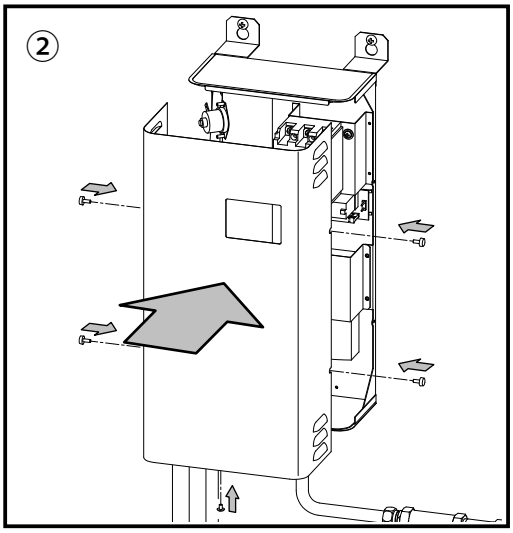
漏電ブレーカの定格は右表を参照してください。

機　　種	漏電ブレーカ定格
DE-10N1(1)	50AF 40AT 3P
DE-15N1(1)	63AF 60AT 3P

5.外装カバーの取り付け

①本体の漏電ブレーカがOFFになっているか確認してください。

②右図のように外装カバーを閉じて、左右4ヶ所と底部1ヶ所のネジを固定してください。



6. 試運転を行う

①湯沸器本体の漏電ブレーカがOFFになっていることを確認してください。

②止水栓を開けて、混合水栓の湯側を全開にしてください。湯沸器や配管が満水になるまで（水の量が安定するまで）流し続けます。

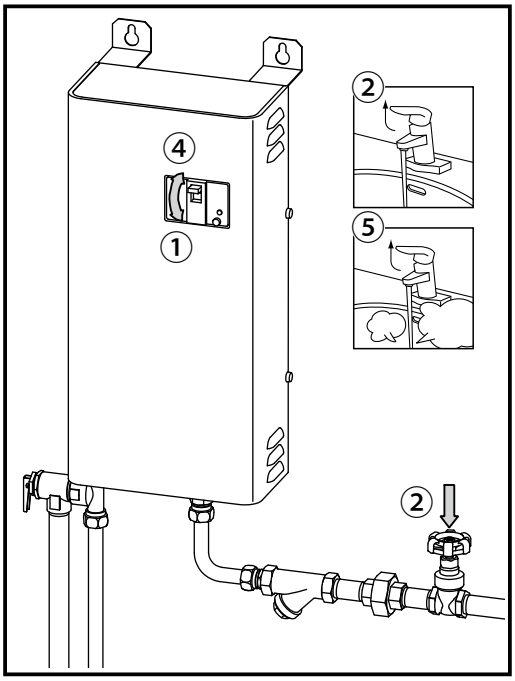
※湯沸器や配管が満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。

水の量が安定したら配管の汚れをタンク内から排出するため、そのまましばらく流し続けます。

③混合水栓を閉めて、各配管接続部からの漏水がないか確認してください。

④湯沸器本体の漏電ブレーカをONにしてください。

⑤混合水栓を再度開き、3L/min以上の流量で水を出して温水が出ることを確認してください。確認できたら混合水栓を閉めてください。（配管距離が長い場合はお湯が出るまで時間がかかることがあります。）



7. 施工後の確認

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
設置工事	湯沸器にがたつきはありませんか？	□
配管工事	各配管、継手に漏水はないですか？	□
	ストレーナーの中にゴミ詰まりはないですか？	□
電気工事	漏電ブレーカは正しく作動しますか？	□
	D種設置工事は正しく行われていますか？	

以上で施工終了です。

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

1.使用前の準備と確認

チェックリスト

項　目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物はないですか？	□
	本体の上には物などを乗せていませんか？	□
	安全弁が吹き出していませんか？	□
	各配管、継手に漏水はないですか？	□

お願い：故障時の対応策をおとりください

故障した場合、修理完了までの間機器は使用できません。給湯不能時の営業保証はいたしませんので「故障＝営業停止」に至るような使い方はお避けください。予備機を設置するなど運用でカバーできる体制を事前にお整えください。

①給湯側の混合水栓が閉じていることを確認します。

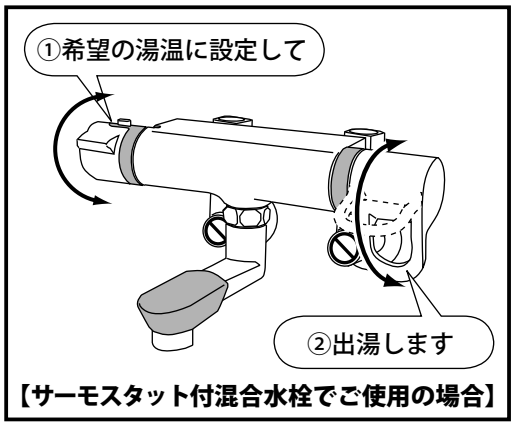
②一次側電源および湯沸器の漏電ブレーカをONにします。（→ P.5「各部名称」参照）

③止水栓（→ P.12「標準配管図」）を開きます。（止水栓の位置と操作方法が分からない場合は施工業者様へおたずねください。）

2.お湯を出す／お湯の温度を調整する

DE-N1には水の流れを検知する水量センサーが組み込まれており、混合水栓を開いて湯沸器を流れた水の量（3L/min以上）を感知することでヒーターへの通電を開始し、お湯を沸かします。
お湯の温度は能力の範囲で流量（給湯量）に応じ、約50℃を給湯します。（ただし、電圧降下などによる電圧変動、ヒーター発熱量の差などにより50℃が出ない場合があります）
そのため、ご使用時には湯温を簡単に調整できる混合水栓やサーモスタット付混合水栓で温度を調節しながらお使いください。

給湯栓による湯温調節



【サーモスタット付混合水栓でご使用の場合】

【シングルレバー混合水栓でご使用の場合】

ワンポイント P
使用中、湯沸器本体に流れる流量が3L/min未満になるとヒーターへの通電がストップし、お湯になりません。
他の給水による水圧変化や給湯栓の絞りすぎにはご注意ください。

お手入れの方法

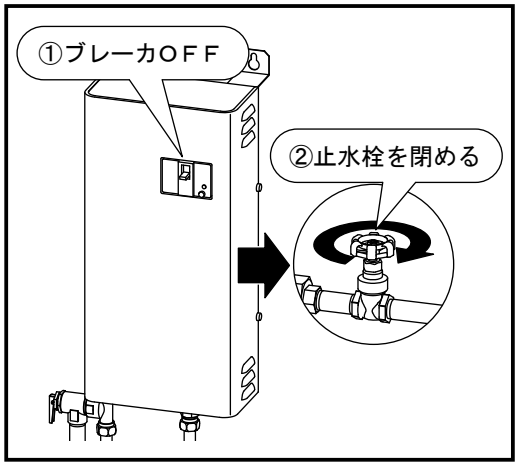
保守点検項目と実施の目安

点検項目	点検内容	点検の目安
重要 安全弁の動作確認	安全弁から常時水が出ていないか確認してください。（当ページ下部「安全弁の動作確認」参照）	1回／月
漏電ブレーカの動作確認	P.14「漏電ブレーカの動作確認」を参照し、動作確認を行ってください。正常動作が確認できなかった場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。	
漏水全般についての点検	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日

長期間使用しないときは

①一次側電源および湯沸器の漏電ブレーカをOFFにします。

②止水栓を閉め、給水を止めてください。

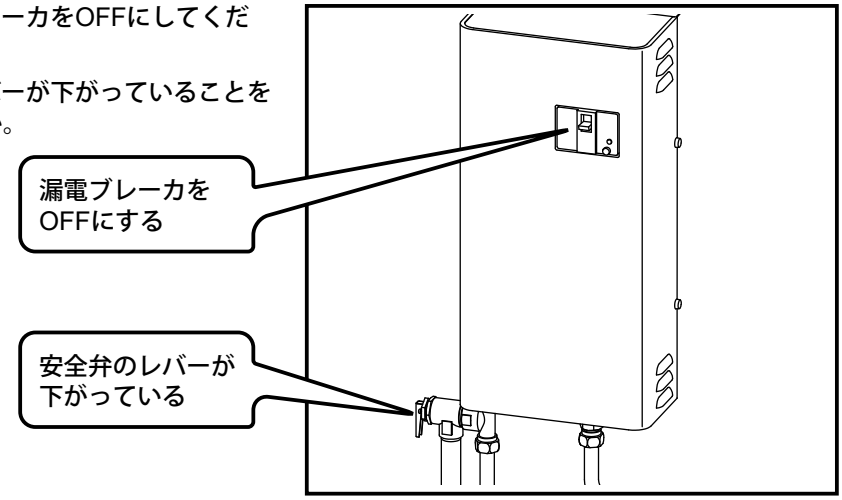


安全弁の動作確認

安全弁が作動しなくなると機器内部配管などの破損や事故の原因となります。定期的に安全弁の動作確認を行ってください。

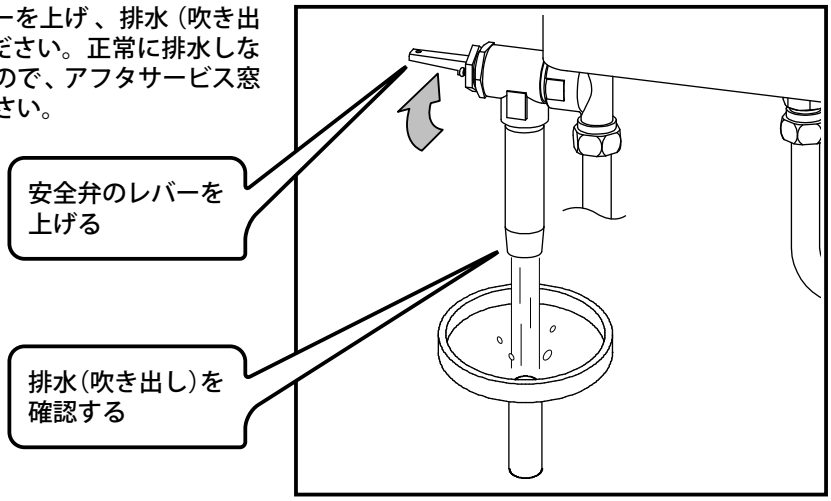
①湯沸器の漏電ブレーカをOFFにしてください。

②安全弁テストレバーが下がっていることを確認してください。

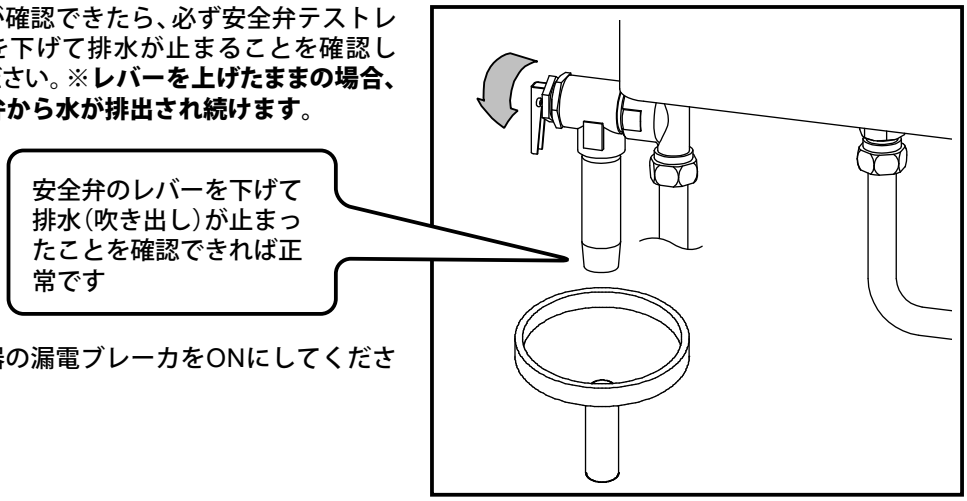


お手入れの方法

③安全弁テストレバーを上げ、排水（吹き出し）を確認してください。正常に排水しない場合は故障ですので、アフタサービス窓口までご連絡ください。



④排水が確認できたら、必ず安全弁テストレバーを下げて排水が止まることを確認してください。※**レバーを上げたままの場合、安全弁から水が排出され続けます**。



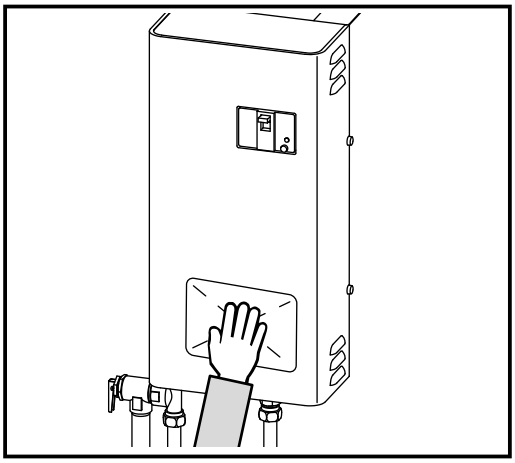
⑤湯沸器の漏電ブレーカをONにしてください。

ワンポイント P

安全弁の内部にゴミが付着すると水が流れ続ける場合があります。そのようなときは安全弁レバーを上げて、しばらく水を流した後で再度確認を行ってください。

外装の清掃

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量にうすめた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

故障かな？と思ったら

湯沸器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

状況	ご確認ください	対処方法
水もお湯も出ない または出が悪い	断水ではありませんか？	水道局へお問い合わせください。断水中は使用できませんので、断水が終了するまでお待ちください。断水が終了した後、お湯が濁っているような場合には濁りがなくなるまで出し続けてください。
	止水栓が閉まっていませんか？	閉まっていたら開けてください。
	配管に取り付けられているストレーナーが詰まっていませんか？	ストレーナーの清掃を行ってください。（清掃に関しては管理技術者の方にお問い合わせください。）
	給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するためには給水圧力は0.1MPa以上必要です。給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。
	配管が凍結していませんか？	凍結する場所ではご使用できません。
お湯が沸かない（水のまま）	湯沸器の漏電ブレーカがトリップ状態（レバーが中間の位置）になっている	漏電のおそれがあります。危険ですのでただちに使用を中止し、アフターサービス窓口まで至急ご連絡ください。
		ヒーター断線、もしくはヒーター用リレー（SSR）異常のおそれがあります。アフターサービス窓口まで至急ご連絡ください。
		温度センサー異常のおそれがあります。 アフターサービス窓口まで至急ご連絡ください。
		給水温度が高い可能性があります。 一旦、湯沸器の漏電ブレーカをOFFにして給水温度が35℃以下であるか確認してください。 35℃以下であれば、再度漏電ブレーカをONにしてお使いください。給水温度が高い場合は、管理技術者の方へご相談ください。
		コントローラ異常のおそれがあります。アフターサービス窓口まで至急ご連絡ください。
	一次側電源がOFFになっていませんか？	一次側電源をONにしてください。 漏電や電気容量オーバーの可能性がある場合は、使用せずに管理技術者の方へご相談ください。
	湯沸器の漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	湯沸器の漏電ブレーカをONにしてください。
	停電ではありませんか？	電気の復旧をお待ちください。
	出湯量（通水量）が少なすぎませんか？	湯沸器の使用最低流量は3L/min以上です。P.6「仕様」を参照して混合水栓や止水栓を調整してください。
	配管は正しく行われていますか？	給湯と給水の配管に間違いがないか管理技術者の方に確認をご依頼ください。
	給水圧力が低すぎませんか？	湯沸器が適切に運転するため給水圧力は0.1MPa以上必要です。給水圧力が低い場合は管理技術者の方へご相談ください。

状況	ご確認ください	対処方法
お湯がぬるい	給水温度が低すぎませんか？	湯沸器は約50℃を給湯する仕様ですが、給水温度によって出湯温度が異なります。P.6「仕様」をご参照ください。
	混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？（給湯側の止水栓は十分開いていますか？）	やけどに注意しながら「湯だけ」、「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は管理技術者の方へご相談ください。
	出湯量（通水量）が多すぎませんか？	湯沸器は約50℃を給湯する仕様ですが、流量によって出湯温度が異なります。P.6「仕様」を参照して混合水栓や止水栓を調整してください。
	混合水栓が故障していませんか？	故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。
お湯が熱すぎる	混合水栓の給湯と給水の圧力バランスは取れていますか？（給湯側のバルブは十分開いていますか？）	やけどに注意しながら「湯だけ」、「水だけ」をそれぞれ出して流れる量を比較してください。両方の出方のバランスが取れていない場合は管理技術者の方へご相談ください。
	混合水栓が故障していませんか？	故障の場合は混合水栓メーカーの販売店にご相談ください。
汚れたお湯が出る	断水や水道工事の直後ではありませんか？	濁りがなくなるまで出し続けてください。
	配管が腐食していませんか？	配管のサビ等による赤水が続く場合は管理技術者の方へご相談ください。
漏水している	本体からですか？	止水栓を閉め、一次側の漏電ブレーカをOFFにし、アフターサービス窓口までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	漏水箇所を締め直してください。

これらの対処を行っても改善されない場合は、アフターサービス窓口までご相談ください。

アフターサービス

消耗品について

下記に記載す部品は定期的な交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため、定期的に交換してください。 部品交換（有償）はアフターサービス窓口までご依頼ください。

部品名	交換時期の目安	交換いただく理由
安全弁	設置、交換日より 2～5年	長期間ご使用いただくことにより、経年劣化やスケール※による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。 ※水道水中のミネラル分が固着したもの。
逆止弁		
ヒーター		

※上記以外でもパッキン類や電気部品交換が必要になる場合があります。使用頻度、環境によっては交換時期が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

メンテナンス契約について

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル部までご連絡ください。また、部品の注文はアフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼されるときは、P.26の故障状況シートの必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。（型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。）

アフターサービス窓口

TEL 〈全国共通ナビダイヤル〉

一般電話･公衆電話･携帯電話の場合（市内通話料金でご利用可能です）

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-011039

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

受付時間:24 時間 365 日（営業時間:8:45～17:45）

一般電話･公衆電話の場合は市内電話料金でご利用可能、携帯電話からも接続可能です。

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。※ＰＨＳ、ＩＰ電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様：03(3621)2161　**関東地区以外のお客様：**裏表紙記載の最寄りの営業所・地区販売会社にお問い合わせください。

インターネット 〈インターネット修理受付窓口〉

https://www.itomic.co.jp/repair/

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX 〈FAX 修理受付窓口〉 03-3621-2163

FAX で修理のご依頼を受け付け致します。P.26 の故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所･地区販売会社へお送りください。（裏表紙に記載）

故障状況シート

貴　社　名		ご担当者名	
ご　住　所			
T　E　L		F　A　X	
製品型番	DE-　　N1		
電源、電力		製造番号	
設置場所		保証期限	

状　態

MEMO

MEMO

MEMO

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、アフターサービス窓口までご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
   （１）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
   （２）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
   （３）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
   （４）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
   （５）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
   （６）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
   （７）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
   （８）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
   （９）電気・給水の供給トラブル等による不具合
   （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
   （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
   （12）火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
   （13）保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様ご自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認いただくとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧いただくか、アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社日本イトーミック

本社・営業本部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2121（代）**
FAX：03（3621）2130
〒131-0045　東京都墨田区押上 1-1-2（東京スカイツリーイーストタワー 24F）
ホームページ　https://www.itomic.co.jp/

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話･公衆電話･携帯電話の場合（市内通話料金でご利用可能です）

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直しください。
※ＰＨＳ、ＩＰ電話からはご利用になれません。関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所もしくは地区販売会社まで直接お問い合わせください。

関東地区お問い合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2161**
FAX：03（3621）2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。
また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2760**
FAX：03（3621）2160

《担当エリアと営業所》

北海道地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：011（615）6681**
北海道営業所　**FAX：011（615）7004**
〒063-0801　北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10（ラポール 24 軒 2 号館）
担当エリア：北海道地区全域

東北地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：022（357）0848**
東北営業所　**FAX：022（357）0847**
〒983-0014　宮城県仙台市宮城野区高砂 2-8-21
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：03（3621）2121**
（株）日本イトミック　本社　**FAX：03（3621）2130**
〒131-0045　東京都墨田区押上 1-1-2（東京スカイツリーイーストタワー 24F）
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県／静岡県

中部・北陸地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：052（222）2561**
中部営業所　**FAX：052（222）2559**
〒460-0002　愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12（アレックスビル 3F）
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：06（7177）4949**
関西営業所　**FAX：06（7177）4948**
〒541-0056　大阪府大阪市中央区久太郎町 3-1-11 VORT 御堂筋本町Ⅱ 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：082（240）1361**
中国営業所　**FAX：082（240）1363**
〒730-0051　広島県広島市中区大手町 2-3-9（大手町中村ビル 2F）
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **TEL：092（481）3911**
九州営業所　**FAX：092（481）3930**
〒812-0007　福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

DE00D15001-10　　'22.01-8-1-0.3 Ⓘ